

保健体育科学習指導案

坂町立坂中学校
指導者 横山 寿一 (T1)
池田 裕一 (T2)

1 評価問題

バドミントンのハイクリア（コート奥に打つ）のポイントを3つ答えなさい。

2 日 時 平成26年11月12日（水）第5校時

3 場 所 坂町立坂中学校 体育館

4 学年・学級 第3学年2・3組 38名（男子38名）

5 単 元 名 球技「ネット型：バドミントン」

6 単元（題材）設定の理由

(1) 単元（題材）観

本単元は、中学校学習指導要領保健体育科における体育分野の内容の球技の第3学年の「技能（1）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。」の「イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。」及び「態度（2）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。」「知識、思考・判断（3）技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。」に当たる。

バドミントンは、1対1や2対2でネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを操作して様々な打球を打ち、いかに相手コートに落とすか、そして得点を重ねていくかを競い合う「ネット型」の運動であり、攻守の切り替えが非常に速いという特徴がある。また、色々なストロークを使ってラリーを続けたり、相手を惑わす打球（緩急をつけた打球や相手を前後左右に揺さぶる打球）を打って得点を競い合ったりする楽しさがある。相手の特徴を分析して作戦を考えたり、対戦した相手や自分のチームの特徴を考えて作戦を考えたりするなどの楽しさもある。これらの特徴を生かすことで、活動への興味・関心をもたせ、意欲的に運動させることができると考える。

(2) 生徒観

本学級の生徒の保健体育に関するアンケートを行ったところ、次のような結果になった。

1	私は体育の授業が好きです (あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない)	
	肯定的評価	78.9%
	否定的評価	21.1%
2	私は体育が得意です (あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない)	
	肯定的評価	60.5%
	否定的評価	39.5%

「私は体育の授業が好きです」と肯定的にとらえている生徒が大部分であり、保健体育の授業において意欲的に取り組み活動する姿が見られ授業への関心の高さが伺える。また、39.5%の生徒は「体育は得意です」という質問に対して否定的評価である。

本校の研究主題「根拠を示して説明をする力を育てる授業づくり～『坂中学びのサイクル』の活用を通して～」に対する生徒アンケート「私は授業で根拠を示して説明することができる」という設問に対する3年生肯定的評価は59.8%であり、身に付けた基礎的な知識を活用し表現する力が身に付いていないと考えられる。

今までに球技でネット型の競技はバレーボールを実施している。バドミントンについては初めての種目であり、基本技術が十分身に付いているとは言えない。また、経験したことがある生徒とそうでない生徒とでの技術面での差が大きい。

本校3年生の新体力テストの結果は次のような結果であった。(▼はH25 県平均かつH24 全国平均を下回っている)

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立幅跳	ハンドボール投げ
H26年度3年	▼32.6	32.3	54.6	56.9	96.1	▼7.7	213.3	24.5

握力、50m走については県平均と比較して下回っており課題である。

(3) 指導観

本単元では基本技術の習得とともに、対人的技能、集団的スキルを身に付けさせたい。そのために、基本スキルであるラケットの操作やシャトルを持たない時の動きをグループ活動を通して学習させたい。その際には映像からスキルのポイントを考えさせ、それをスキルのポイントとしてまとめる作業を行い、知識としての定着とともにスキルも身に付けさせる。そして身に付けたスキルを対抗戦につなげ、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようにしていきたい。練習や相互の協力によりスキルの習得などが図られることを体感させ、できなかったことができるようになった喜びを感じさせることにより、さらに意欲的に運動に親しむ態度や習慣を確立させたいと考える。あわせて、今後の運動、スポーツ活動をより充実したものにするために運動やスポーツの基本的な正しい動き方を見付けさせ運動観察を通して運動やスポーツの学び方を身に付けさせたい。

また、バドミントンでは、シャトルを遠くに飛ばしたり、高く打ち上げたりする活動を行う。このことにより、筋力を高め、投力を養うことができる。また、ラケットを操作していろいろな打球を打ったり、相手からのいろいろな打球に応じて返球したりする活動を行う。このことにより、巧緻性を養うことができる。さらに、空いた場所に打たれた打球を返球したり返球後に定位置へ素早く戻ったりする活動を行う。このことにより、敏捷性や瞬発力を養うことができると考え本学年の体力向上につながる題材であると考え。

支援が必要な生徒に対しては、個別のめあてをさらにスモールステップで設定させ、ワークシートを工夫するなど個の実態に合った学習内容や指導を行う。

具体的には、次のことに気をつけて実施する。

- ① めあてを示し、授業に対する意欲を高める。
- ② 1時間の授業の流れを明示し、授業の見通しをもたせる。
- ③ 授業の中でグループでの学び合いの場面を設定し、思考力、判断力を高めるとともに、望ましい人間関係づくりをすすめる。
- ④ 振り返りの中で、1時間の学習内容を確認し、次時の学習への意欲につなげる。

(4) 研究主題との関わり

本校研究主題「根拠を示して説明をする力を育てる授業づくり～『坂中学びのサイクル』の活用を通して～」に沿った取組として、映像から打ち方のポイントをそれぞれ観察させ、それらを集約して自分たちのスキルのチェックポイントを作成させる。そのポイントを練習の中でお互いに確認させることによりハイクリアの正しい打ち方の実践につなげていく。

バドミントンは攻守の切り替えが非常に速く、「どこにどんな打球を打ったらいいのか」「相手がどこへどんな打球を打とうとしているのか」を短時間で考え判断しなければならない場面がある。また、団体戦では、相手チームや自分のチームの特徴を分析して作戦を考える場面がある。これらのことから、ねらいをもって攻守の仕方を個人や集団で見付けることは、思考力や判断力を養うことにつながるとともに、運動やスポーツの学び方につながると考える。

7 単元（題材）の評価規準

ア 運動や健康・安全への関心・意欲・態度	イ 運動や健康・安全についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動や健康・安全についての知識・理解
①バドミントンの特性に関心を持ち、自己の責任を果たし学習に自主的に取り組もうとしている。 ②作戦などについて話し合いに貢献し、互いに助け合い教えあおうとしている。 ③健康・安全に留意し、運動している。	①提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ②ペアや個人の課題をとらえ、練習の見直しやゲームで新たな作戦を見付けている。 ③運動の行い方のポイントを見付けることができる。	①練習やゲームで各フライトを相手や状況に応じて効果的に打ち分けることができる。 ②技能のポイントを意識して練習やゲームができています。 ③空いた場所をめぐる攻防を展開するためのラケットの操作と連携した動きができる。	①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ③試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

8 指導と評価の計画（全8時間）

	学習内容（時数）	評 価					評価方法
		関	考	技	知	評 価 規 準	
第1次 （5時間）	オリエンテーション（1）	◎			○	・バドミントンの特性に関心を持ち、自己の責任を果たし学習に自主的に取り組もうとしている。	提出物 テスト
	いろいろなストロークを身につける（3） （本時 2/3）			○	◎	・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。	ワークシート 行動観察 テスト
			◎		○	・運動の行い方のポイントを見付けることができる。	
		○		◎		・練習やゲームで各フライトを相手や状況に応じて効果的に打ち分けることができる。	
個人的な技能を高めながらゲームを楽しむ（1）	○		◎		・技能のポイントを意識して練習やゲームができています。	ワークシート 行動観察	
第2次 （3時間）	相手や状況に応じた技能を高めながらゲームを楽しむ（2）		○	◎		・空いた場所をめぐる攻防を展開するためのラケットの操作と連携した動きができる。	ワークシート 行動観察 テスト
			◎		○	・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。	
	まとめの大会（1）	◎		○		・作戦などについて話し合いに貢献し、互いに助け合い教えあおうとしている。	行動観察 ワークシート

9 本時の目標

ハイクリアのポイントを見付けることができる。

10 指導過程

	学習活動	形態	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	1 準備運動 ・ランニング, 体操, 補強運動 2 集合 挨拶 ・出席確認 健康観察など 3 本時の学習のめあて, 授業の流れの確認 (つかむ) (見通す)		◇生徒の健康状態を把握する。 (T 1・T 2) ◇ホワイトボードへ学習のめあてと授業の流れを明記する。(T 1)	
めあて: ハイクリアのポイントを見付けることができる				
展開	4 映像を確認し, ポイントを書き出し, ワークシートにキーワードを書き発表する。 (肩) 肩からまわっている (深める) (振り切り) 振り切っている (※図の出典: 「中学体育実技」学研教育みらい) (重心) 右足に体重がかかっている	個人 ↓ グループ ↓ 全体	◇スマッシュのポイントを想起させる。(T 2) ◇各自で付箋にポイントを書く。 【配慮を要する生徒への手立て】 ・どのような足の運びか。 ・腕や肩の使い方は。 ・体の使い方は。 ◇なぜその動きが必要なのか問う。 ◇相互アドバイスをを行う。	・具体的な体の部分やラケットの動きについてポイントを挙げている。 【思考・判断】 (ワークシート・付箋) ・ポイントを意識するよう声かけをする。
	5 グループごとにハイクリアの練習をする。	グループ		
	6 簡易ゲームでハイクリアを意識した試合を行う。	グループ		
まとめ	7 片付け 8 集合 振り返り 挨拶 ・振り返り, ワークシートへ記入する。 ・ハイクリアのポイントをまとめて発表する。 (まとめる)		ハイクリアのポイントは, ステップでは後ろ足にしっかり体重を乗せることです。スイングでは高い位置で打てるように肘をしっかり伸ばすところです。フォロースルーでは左足に体重を乗せることです。	
振り返り: ハイクリアのポイントを見付けることができたか				
	・全体で本時のねらいについて振り返りをする。 ・次時の予告をする。			

11 準備物

3点セット（ファイル，実技教科書，筆記用具），ワークシート，ラケット，シャトル，ネット一式，DVDプレーヤー，プロジェクター，マジック

12 板書計画

めあて ハイクリアのポイントを見付けることができる。

ハイクリア…相手の頭上を高くこえてコートの後方まで深くとばす打ち方

流れ 集合，準備運動，あいさつ，出欠確認

直上シャトル打ち上げ

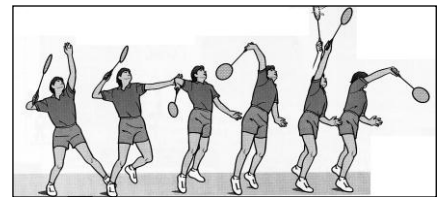
ハイクリアのポイント（ワークシート）…映像

ハイクリア練習

簡易ゲーム…前後に動かす（ハイクリアを入れる）

片付け

説明 ハイクリアのポイントをまとめると



(※図の出典：「中学体育実技」学研教育みらい)

振り返り ハイクリアのポイントを見付けることができたか

ワークシート（自己評価表）記入

あいさつ